

保健学習 Q & A

Q 1 今求められる健康教育とは何でしょうか？

A 健康教育には次のことが求められています。

運動・栄養及び休養を柱とする調和のとれた生活習慣の確立

健康の価値を自らのこととして認識し、自分自身を大切にする態度の確立

ストレスが生じた場合の対処法などの生活技術の習得

健康問題を意識し、日常の行動に知識を生かして健康問題に対処できる能力や態度の育成

(健康の保持増進のために必要なことを実行し、よくないことをやめるという行動変容を実践できる能力を身に付ける)

近年、経済や科学技術等の発展に伴う社会の変化から、健康をめぐる様々な問題が指摘されています。明るく豊かで活力のある生活を営むためには、一人ひとりが心身の健康問題を意識し、生涯にわたって主体的に心身の健康の保持増進を図っていくことが必要です。そして心身の健康の保持増進を図るためには、これらのことが求められています。

このような心身の健康の保持増進を図る上で、健康問題によりよく対処できる能力・態度を身に付け、より高い価値を備えた人間形成を目指した健康教育・学習が重要となります。

生涯にわたる心身の健康の保持増進に必要な知識、能力、態度及び習慣を身に付けることによって、たくましく生きる意志と意欲、価値観を形成するなど、[生きる力]を育むとともに、生涯にわたり活力ある健康的なライフスタイルを築いていくことができると考えられます。

(文部科学省 「保健体育審議会答申」平成9年9月)

Q 2 健康教育の充実に向けた保健学習の役割とは何でしょうか？

A 保健学習の役割は、心身の健康の保持増進に関する指導において、「核」あるいは「基礎・基本」として位置づけられ、学校における健康教育の要をなすものと考えられます。

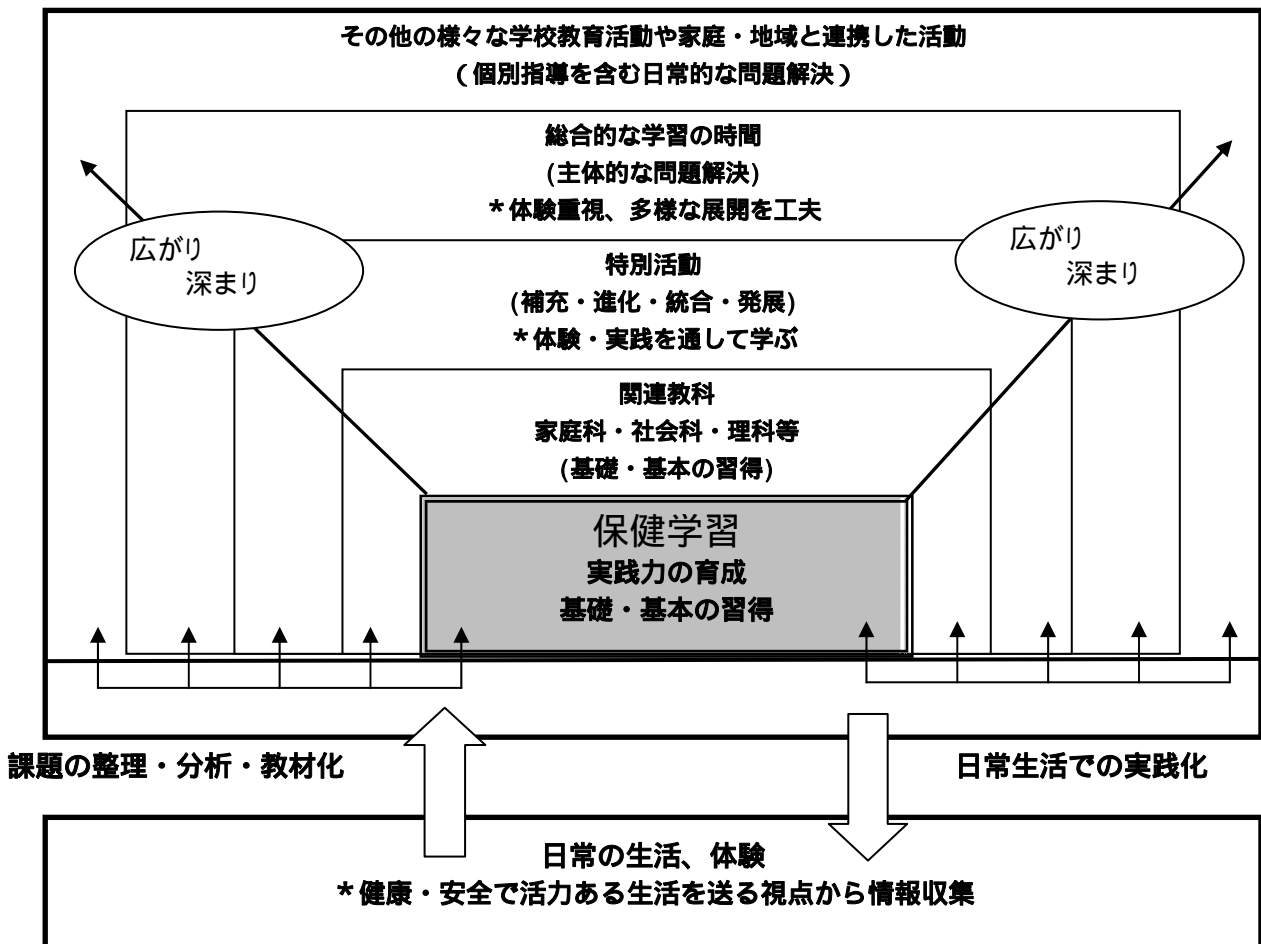
学習指導要領総則の「体育・健康に関する指導」では、「生涯を通じて健康・安全で活力ある生活を送る基礎を培う」と示されています。特に、体づくり及び心身の健康に関する指導は、体育科・保健体育科はもとより、教育活動全体で行われることや、家庭や地域社会との連携を図って行われること、日常生活での実践を通して行われることが示されています。

また、体育科・保健体育科の目標では、調和のとれた人格形成を目指し、「心と体を一体としてとらえ、明るく豊かで活力のある生活を営む態度の育成」を図ることが求められています。

そのため保健学習では、「生涯にわたる健康の保持増進のための基礎づくり」として、健康・安全に関する理解を図りながら健康課題の解決方法を学び、適切な意志決定や行動選択ができる健康の保持増進のための実践力を育成していくことが目指されています。 (小・中・高等学校学習指導要領)

次の図は、保健学習が学校健康教育の中核であり、その他の各活動により実践化をするといった、学校健康教育のイメージを示したものです。高等学校においては、「道徳の時間」は設定されていませんが、その他においてはほぼ同じイメージで捉えることができます。

学校健康教育のイメージ



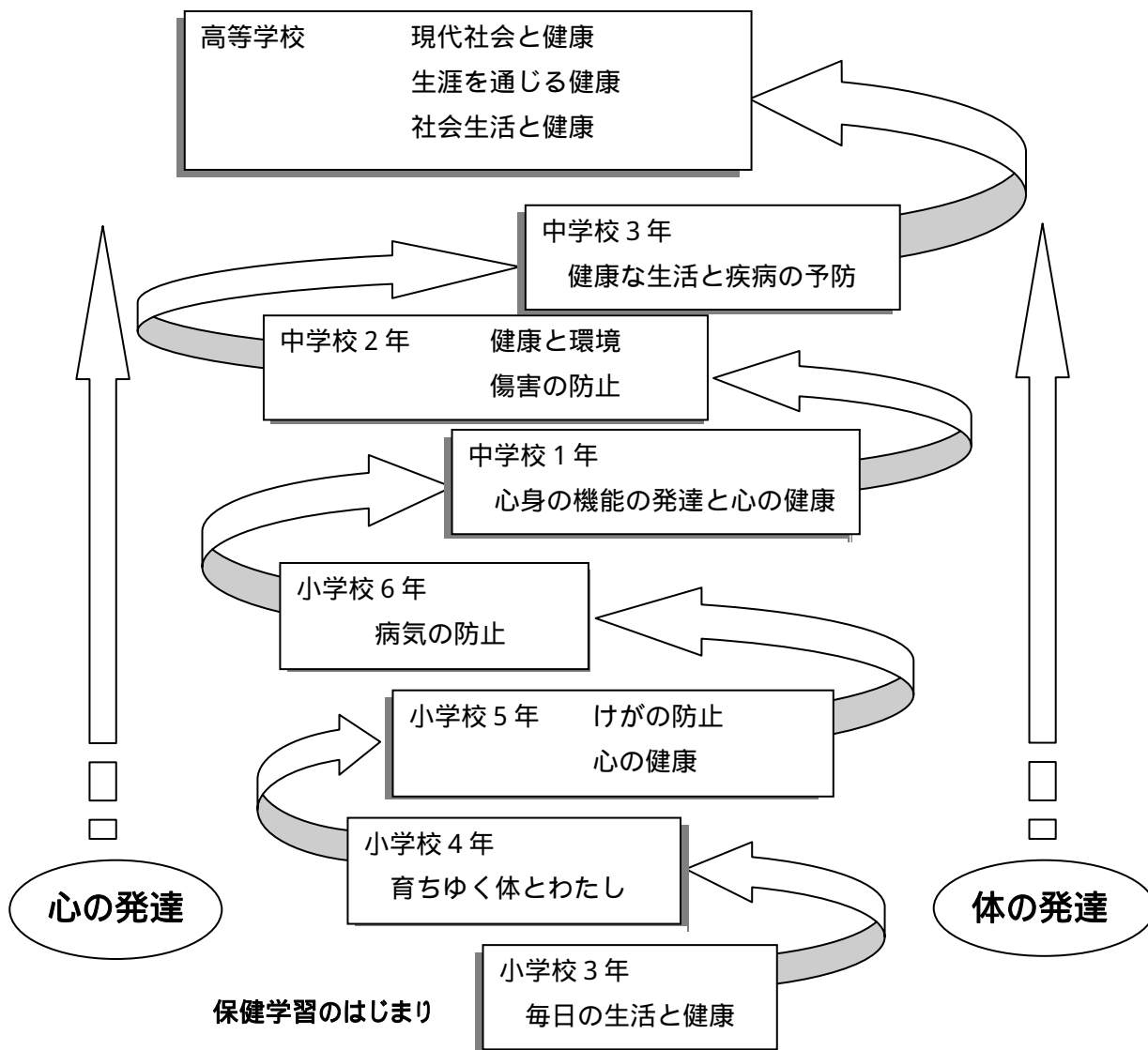
(平成 17 年健康教育推進のための指導者の養成を目的とした研修 文部科学省青年局 戸田体育官説明資料)

Q 3 9年間を通した学習は、どのように進められるのでしょうか？

A 小学校、中学校、高等学校の学習はそれぞれの校種で完結しているわけではなく、実践的理解(小) 科学的理解(中) 総合的理解(高)と、概念レベルが高度になりながら進んでいます。

このように、保健学習は次の図のように、9年間を通してスパイラルに学習が進められます。

9年間の学習



* 小学校では、3、4年で8単位時間程度、5、6学年で16時間単位程度、中学校では、48単位時間程度、高等学校では2単位(1単位は35単位時間)と定められています。学校実情等に応じて時間を配当します。

Q 4 9年間の学習内容はどのようになっているのでしょうか？

A それぞれの項目で一番大きい項目が「内容のまとめ」、次に大きい項目が「単元」、一番小さい項目を「小単元」と呼び、それぞれの内容は次のように構成されています。

小学校

【第3学年】

- (1)「毎日の生活と健康」
 - ア 1日の生活の仕方
(食事・運動・休養・睡眠など)
 - イ 身のまわりの清潔や生活環境
(手足の清潔・明るさ・換気・学校で行われる保健活動など)

【第4学年】

- (2)「育ちゆく体とわたし」
 - ア 体の発育・発達と食事、運動などの大切さ
 - イ 思春期の体の変化
(体つきの変化・初経・精通・変声・発毛・異性への関心など)

【第5学年】

- (1)「けがの防止」
 - ア 交通事故や学校生活の事故などの原因とその防止
 - イ けがの手当
(すり傷・鼻出血・やけど・打撲などの手当)

- (2)「心の健康」
 - ア 心の発達
 - イ 心と体の密接な関係
 - ウ 不安や悩みへの対処

【第6学年】

- (3)「病気の予防」
 - ア 病気の起こり方
(病原体・体の抵抗力・生活行動・環境とのかかわりあい)
 - イ 病原体がもとになって起こる病気の予防
 - ウ 生活行動がかかわって起こる病気の予防
(喫煙・飲酒・薬物乱用の内容も含む)



各内容を関連のあるもので結ぶとご覧のようになります。P15には、これらの単元、小単元で直接関連しているものを10系統ピックアップして載せてあります。

中学校

【第1学年】

- (1)「心身の機能の発達と心の健康」
 - ア 身体機能の発達
 - イ 生殖にかかわる機能の成熟
 - ウ 精神機能の発達と自己形成
(ア)知的機能、情意機能、社会性の発達
(イ)自己形成
 - エ 欲求やストレスへの対処と心の健康
(ア)欲求やストレスへの対処
(イ)心身の調和と心の健康

【第2学年】

- (2)「健康と環境」
 - ア 身体と環境に対する適応能力・至適範囲
(ア)気温の変化と適応能力
(イ)温度、湿度、明るさと至適範囲
 - イ 空気や飲料水の衛生的管理
(ア)空気の衛生的管理
(イ)飲料水の衛生的管理
 - ウ 生活に伴う廃棄物の衛生的管理

- (3)「傷害の防止」
 - ア 自然災害や交通事故などによる傷害の防止
(ア)傷害の発生要因とその防止
(イ)交通事故による傷害の防止
(ウ)自然災害による傷害の防止
 - イ 応急手当
(ア)応急手当の意義
(イ)応急手当の方法
(ウ)包帯法・止血法・人工呼吸法など)

【第3学年】

- (4)「健康な生活と疾病の予防」
 - ア 健康の成り立ちと疾病の発生要因
(ア)健康の成り立ち
(イ)主体と環境要因
 - イ 生活行動・生活習慣と健康
(ア)食生活と健康
(イ)運動と健康
(ウ)休養及び睡眠と健康
(エ)調和のとれた生活と生活習慣病
 - ウ 喫煙、飲酒、薬物乱用と健康
(ア)喫煙と健康
(イ)飲酒と健康
(ウ)薬物乱用と健康
 - エ 感染症の予防
(ア)感染症の原因とその予防
(イ)エイズ及び性感染症の予防
 - オ 個人の健康と集団の健康

高等学校

入学年次及びその次の年次

- (1)「現代社会と健康」
 - ア 健康の考え方
(ア)国民の健康水準と疾病構造の変化
(イ)健康の考え方と成り立ち
(ウ)健康にかかわる意思決定と行動選択
(エ)様々な健康活動や対策
 - イ 健康の保持増進と疾病の予防
(ア)生活習慣病と日常の生活行動
(イ)喫煙、飲酒と健康
(ウ)医薬品の正しい使用、薬物乱用と健康
(エ)感染症とその予防
 - ウ 精神の健康
(ア)欲求と適応機制
(イ)心身の相関
(ウ)ストレスへの対処
(エ)自己実現
 - エ 交通安全
(ア)交通事故の現状
(イ)交通社会に必要な資質と責任
(ウ)安全な交通社会づくり
 - オ 応急手当
(ア)応急手当の意義
(イ)日常的な応急手当
(ウ)心肺蘇生法

- (2)「生涯を通じる健康」
 - ア 生涯の各段階における健康
(ア)思春期と健康
(イ)結婚生活と健康
(ウ)加齢と健康
 - イ 保健・医療制度及び地域の保健・医療機関の活用
(ア)我が国の保健・医療制度
(イ)地域の保健・医療機関の活用

- (3)「社会生活と健康」
 - ア 環境と健康
(ア)環境の汚染と健康
(イ)環境と健康の対策
 - イ 環境と食品の保健
(ア)環境保健にかかわる活動
(イ)食品保健にかかわる活動
(ウ)健康の保持増進のための環境と食品の保健
 - ウ 労働と健康
(ア)職業病や労働災害と健康
(イ)働く人の健康の保持増進

Q 5 学習の展開の基本的な方向とはどのようなものですか？

A 小学校では、「身近な生活における健康や安全」についての「実践的な理解」、中学校では、「自他の心身の健康や安全」についての「科学的な理解」、高等学校では、小学校、中学校での理解を踏まえ、個人生活や社会生活における「総合的な理解」を通してそれぞれの発育・発達段階に応じた資質や能力を育てることを目標としています。

各校種における目標は、次の通りです。

小学校体育科（保健領域の目標が示されていないため、体育科の目標を挙げています。）

心と体を一体としてとらえ、適切な運動の経験と健康・安全についての理解を通して、運動に親しむ資質や能力を育てるとともに、健康の保持増進と体力の向上を図り、楽しく明るい生活を営む態度を育てる。

*保健領域に関連したねらいを示すものとして、健康・安全についての理解があり、この実践的な理解を通して、自らの生活行動や身近な生活環境における課題を把握し、改善することができる資質や能力の基礎を培うことを示したものが、健康の保持増進にあたります。

中学校保健体育科[保健分野]

個人生活における健康・安全に関する理解を通して、生涯を通じて自らの健康を適切に管理し、改善していく資質や能力を育てる。

高等学校保健体育科「科目・保健」

個人及び社会生活における健康・安全についての理解を深めるようにし、生涯を通じて自らの健康を適切に管理し、改善していくための資質や能力を育てる。

（小・中・高等学校学習指導要領・指導要領解説）

各校種における「保健」の評価の観点と趣旨

	健康・安全への 関心・意欲・態度	健康・安全についての 思考・判断	健康・安全についての 知識・理解
小学校	身近な生活における健康・安全に関心をもち、進んで学習に取り組もうとする。	身近な生活における健康や安全について、課題の解決を目指して考え、判断している。	身近な生活における健康・安全について、課題の解決に役立つ基礎的な事項を理解し、知識を身に付けている。
中学校	自他の心身の健康や安全に関心をもち、自ら健康で安全な生活を実践するため、進んで学習に取り組もうとする。	自他の心身の健康や安全について、課題の解決を目指して科学的に考え、選択すべき行動を適切に判断している。	自他の心身の健康や安全について、課題の解決に役立つ基礎的な事項を理解し、知識を身に付けている。
高等学校	個人生活や社会生活における健康・安全に関心をもち、意欲的に学習に取り組もうとする。	個人生活や社会生活における健康・安全について、課題の解決を目指して考え、判断している。	個人生活や社会生活における健康・安全について、課題の解決に役立つ基礎的な事項を理解し、知識を身に付けている。

（国立教育政策研究所教育課程センター）

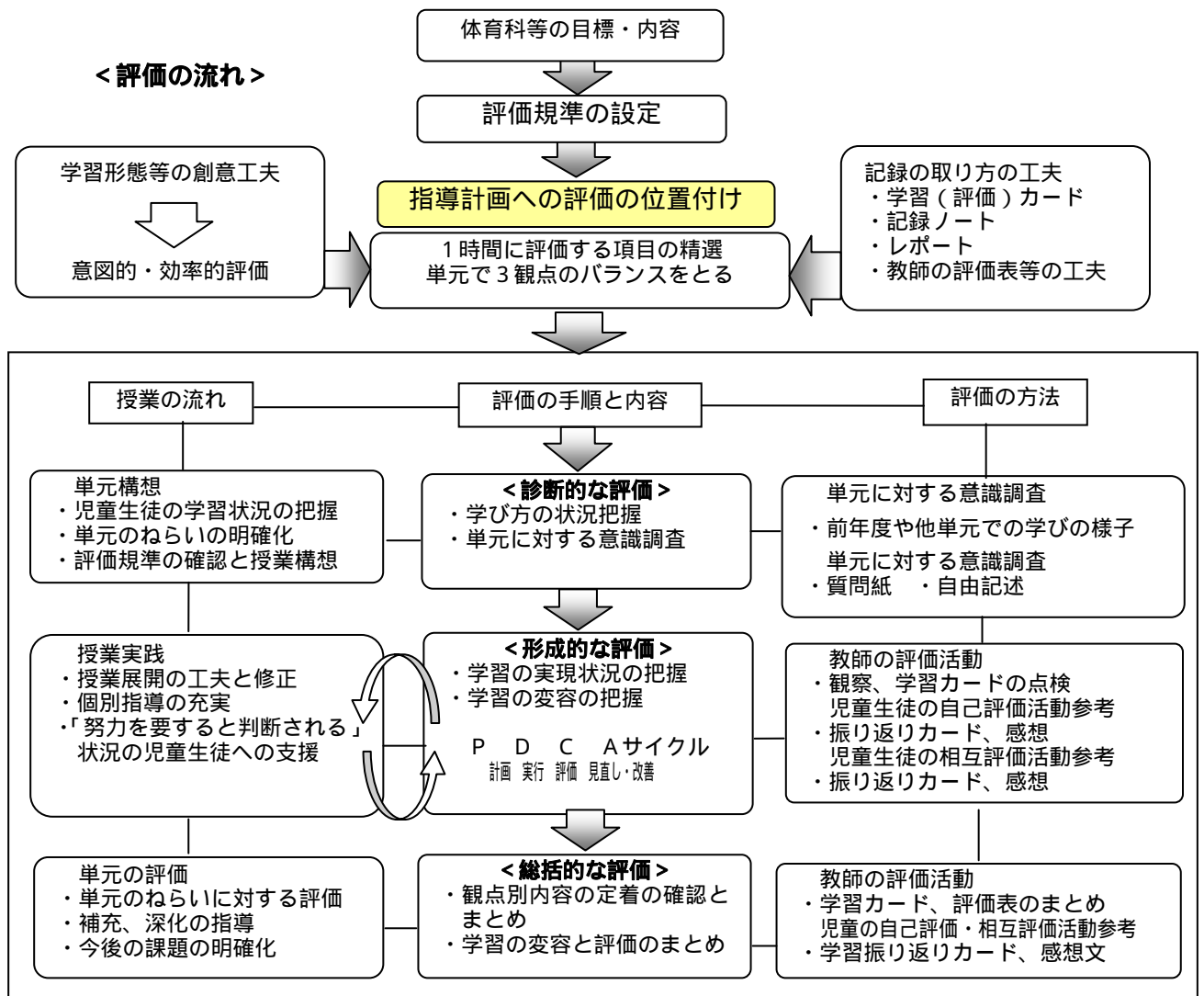
学習評価には、「児童生徒の学習改善のための資料」「教師の指導改善のための資料」「指導要録へ記載するための資料」という役割があります。小学校・中学校・高等学校における評価の観点の趣旨に基づき、学習指導要領における内容のまとまりごとに評価規準を作成しましょう。

Q 6 指導と評価の一体化を目指した学習はどのように進めるのですか？

A 計画(Plan) 実践(Do) 評価(Check) 改善(Action)という一連の活動を繰り返しながら、児童生徒のよりよい成長を目指した指導が展開される必要があります。
 評価の結果から指導を見直し・改善し、さらに新しい指導の成果を再度評価するという、指導に生かす評価を充実させることが大切です。

評価を進めるにあたっては、次の点に配慮して進めましょう。

- 評価規準及びその具体例の設定 → 学習目標、内容をもとに、児童の具体的な学習をイメージする。
- 具体的な評価規準や方法の設定 → 評価項目の精選と、3観点のバランスを考え、指導計画に位置付ける。
- 評価のための記録の方法を工夫 → 学習(評価)カード、教師の評価表、レポート等を工夫する。
- 意図的かつ効率的な評価の実施 → 学習の実現状況を把握し、状況に応じて指導の見直しを図る。



(静岡県校長会「静岡県評価規準モデル」平成14年3月)

Q 7 授業を行う上での指導の工夫にはどのようなものがありますか？

A 講義型の一斉指導から、一歩進んでみましょう。

保健の授業の多くは講義形式の一斉指導が主なものとなり、児童生徒が受身で授業に参加していることが多いのではないかと推察されます。講義形式による学習方法は、適切な質問(発問)や作業などを組み合わせていくことにより、児童生徒の知的好奇心を膨らませ、積極的に授業に参加させることができます。また、学習内容にあった参加型の学習をとりいれるなど、児童生徒が興味・関心を持ち、意欲を持って主体的に活動できるように指導の工夫をしましょう。

1 発問の工夫を行う

授業を活性化し、魅力あるものにするためには、場面に応じた適切な問いかけを行うことや自らが考えるきっかけを与えることができるような問いかけが大切です。さらに、児童生徒が答えやすい受容的な雰囲気を作ることも、自発的な発言を促す大切な要素となります。

十分でない初期の段階	<p>質問は、特定の児童生徒に偏らないようにしましょう。</p> <p>目立たない児童生徒に意識的に声をかけたり、質問をしたりしてみましょう。</p> <p>一人で考えさせた後、二人組みで話し合いをさせ、その後クラスの意見を聞くといった段階を経るようにしましょう。</p> <p>質問後、「待つ」時間をとるようにしましょう。</p> <p>児童生徒の質問に対して、その場で批評や否定をしないようにしましょう。</p> <p>質問の意図が伝わらない場合、噛み砕いたり、例をあげたり、言い換えたりして質問をし直してみましょう。</p>
考えを深める段階	<p>フォローアップの質問(どうして賛成なの?)をして考えを更に引き出すことを意識しましょう。</p> <p>学習内容や場面に応じた質問の種類を用意するようにしましょう。</p> <p>複数の意見をまとめるような要約をさせるようにしましょう。</p> <p>クラスの意見を調査しましょう。</p>
参加意識を高める段階	<p>児童生徒自身に次の発言者を選ばせてみましょう。</p> <p>自分たちの意見を擁護するような場を持たせましょう。</p> <p>自分の考えを発言させるようにしましょう。</p> <p>児童生徒自身に質問を作るような仕組みをしましょう。</p> <p>児童生徒が答えるきっかけを作りましょう。</p>

(神奈川県教育課程推進委員会保健体育部会(保健)編を参考に作成)

2 参加型学習の手法を取り入れる

参加型学習は、人権教育、環境教育などで積極的に取り入れられている手法です。保健学習における参加型学習の目的は、知識の定着、実践的な理解のための生徒の主体的な学習を促すことにあります。主なものを取り上げて説明しますが、それぞれの長所と短所をよく理解した上で、効果的に取り入れてください。

(1) ブレインストーミング(カード)

自由な発想で討議し、創造的に問題解決を目指す手法です。5～10人くらいのグループで、自分の意見できるだけシンプルな形でだします。その中では、良い悪いという判断をせず、自由に、アイデアの量をもとめ、お互いのアイデアを改善したり、結合したりすることができます。そこでだされた意見を集約して発表することも行います。「イメージを整理する」、「課題を解決するアイデアを出す」、「課題を確認する」などの場面で活用できます。また、発言がスムーズにできない場合には、カードに書き込んで出し合うといった方法もとることができます。

意見等を書かれたカードは、ランキング法などに使用することもできます。

(2) グループディスカッション

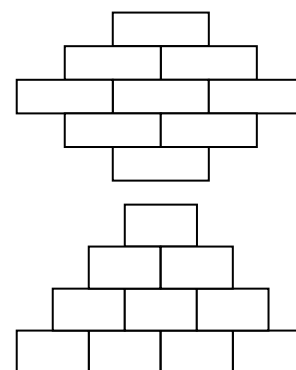
あらゆるテーマについて、自由に意見を述べる活動です。それぞれが自分の意見を持ち発言し、またその発言内容についての自分の考えなどを述べ合うことで、思考力の向上を図ります。お互いに話しやすい雰囲気作りやディスカッションをうまく進めていくための進行役の配置などを十分に考える必要があります。

(3) ディベート

あるテーマについて、肯定側と否定側の2つのチームが議論を行い、その結果を審判が判定するという活動です。内容や形式によって効果が現れない場合もあり、教師が内容や形式(全体を2つに分けるだけでなく3人や5人の単位で行うことも可能です。)を十分に吟味する必要があります。

(4) ランキング

いろいろな文章や要素が書かれたカードを優先順位によって並べるものです。最も重要だと思うもの、最も重要だと思わないもの、考えや話し合いの焦点を当て、ダイヤモンド型に並べるもの、ピラミッド型に並べるものや、分類のやり方を応用させた「最も重要だと思うものトップ3」などの行い方があります。グループでランキングを行う場合には、一人ひとりが異なる価値観や考えを持っていることに気付き、お互いの価値観を尊重しながらグループとして話し合い、合意していくことが大切です。



(5) カード操作による分類

カードに書き出された要素をそれぞれの共通した項目に着目して分類をし、それぞれに題名(テーマ名)をつけます。その分類の作業によって課題を整理したり、対応策を考えたりします。

(6) 連鎖図(連想図・関連図)

あるトピックやテーマに関して、頭に浮かんだ要素の関係・つながりをクモの巣のように表したものです。ニーズや課題に関するつながりや広がりを知ることに役立ちます。



(7) イメージマップ

自分のイメージが、言葉や文章で表現しづらい場合や絵などのほうがイメージを明確化させやすい際に使用します。イメージを共有することによって、話し合いが活発化します。

(8) 事例研究(ケーススタディ)

日常起こりやすい状況を取り上げ、その状況になった場合の自分の対応などを考えます。現実的な問題に対する思考力などの育成に役立ち、行動選択・意志決定に役立ちます。

(9) ロールプレイング

学習の内容に応じて場面設定をし、役割を分担して演技することで、様々な立場の人の意見や考えを理解し、多様な視点を育てるのに役立ちます。演技遂行にのみ集中するのではなく、演技を振り返るフィードバックで学ぶことを大切にします。

(10) 広告分析

日頃目にしている広告について、どのように感じているかを話し合いながら、広告が作られた目的を分析する活動です。批判のみに終始せず、どのように対応するかを話し合うようにします。

(11) 実験・実習

応急手当、心肺蘇生法などの実習や装置を利用した「視覚、聴覚、触覚」などに働きかけるなどの実験によって、体験や体感を通して理解を深めるために活用します。

3 課題学習を取り入れる

課題学習は、生徒が自ら課題を発見し(あるいは自分のものとし)、解決の方法を考え、解決していくというスタイルの学習を指します。3~4時間を使って行う様々な指導の工夫を取り入れた内容が示されていることが多いですが、学習内容によっては、1時間の中でも、「課題発見 解決の方法を考えるー共有する」といった流れの学習を作っていくことで、効果を上げることができます。

4 視聴覚教材を利用する

学習させたい内容を視覚的に訴えることは、生徒に強いインパクトを与えることができ、わかりやすさを高める上で、とても効果的です。指導内容にふさわしい教材の選択し機会を捉えて活用してください。また、その際にはプリント等を活用し、視聴覚教材によって気付いた課題や知識の整理をします。(*著作権の問題には、十分に注意が必要です)

5 チームティーチング(TT)、ゲストティーチャーを活用する

保健学習の内容は多岐にわたっており、また日々新しい事実が生まれたり、考え方、捉え方が変化したりすることが考えられます。これらに対応するためにも、それぞれの領域の専門家から話を聞く機会を設けることも大切です。また、専門家に拘らず、保護者等の協力者を得ることで決め細やかな指導を展開することもできます。

6 導入の工夫をする(アイスブレイク・ウォーミングアップ)

授業における様々な活動を活発に行うためには、クラスが活動しやすい雰囲気作りをすると同時に、学習内容に結び付くような内容で、ゲームをしたりクイズをしたりすることで、スムーズな学習活動の展開に役立ちます。

参考:(財)日本学校保健会「3・4年生から始める小学校保健学習プラン」「実践力を育てる中学校保健学習のプラン」

「意志決定・行動選択の力を育てる高等学校保健学習プラン」平成13年9月

ぎょうせい「参加型学習のすすめ」平成12年9月 ERIC 国際理解教育センター「TOOL8」2006年5月30日

Q 8 保健学習は、他の教育活動と関連させる必要はありますか？

A 保健学習は、体育学習はもとより、他教科、科目、特別活動、総合的な学習の時間等と、互いに関連付けながら、効果的に行う必要があります。

体育領域と保健領域と関連をもたせて指導しましょう。

(例)

- ・小学校4年「育ちゆく体とわたし」では、健康診断の結果を活用する。
- ・中学校1年「心身の機能発達と心の健康」では、体育分野の「体ほぐしの運動」と関連させる。
- ・中学校・高等学校の「応急手当」は、体育分野の「水泳」と関連させる。

他教科、科目、特別活動、総合的な時間等と関連付けて行いましょう。

小学校における保健学習と他教科、道徳・特別活動・総合的な学習の時間などとの関連(例)

学年	単 元 名	他 教 科	道 徳	特別活動・総合的な学習の時間など
3	「毎日の生活と健康」	生活： 内容(1) 内容(2)	1(1)自分でできることは自分でやり、節度ある生活をする 2(4)生活を支えている人々や高齢者に、尊敬と感謝の気持ちを持って接する	学級活動：(2)日常生活や学習への適応及び健康や安全に関すること 総合：健康に関する学習活動
4	「育ちゆく体とわたし」	理科： 人の発生と成長(5年生) 生活： 内容(8)	2(2)相手のことを思いやり親切にする 3(2)生命の尊さを感じ取り、生命あるものを大切にする	学級活動：(2)日常生活や学習への適応及び健康や安全に関すること 総合：健康に関する学習活動
5	「けがの防止」	社会：人々の安全を守る工夫(4年生)	1(1)生活を振り返り、節度を守り、節制に心がける	学校行事：交通安全教室 学級活動：(2)日常生活や学習への適応及び健康や安全に関すること
	「心の健康」	体育：体ほぐしの運動	2(2)だれに対しても思いやりの心を持ち、相手の立場に立って親切にする 2(3)互いに信頼し、学び合って友情を深め、男女仲よく協力し助け合う	学級活動：(1)学級や学校の生活の充実と向上に関すること (2)日常生活や学習への適応及び健康や安全に関すること
6	「病気の予防」	家庭： (1)家庭生活に関心を持って、家庭の仕事や家族との触れ合いができるようにする (4)日常の食事に関心を持って、調和のよい食事のとり方が分かるようにする。	1(1)生活を振り返り、節度を守り、節制に心がける 3(2)生命がかけがえのないものであることを知り自他の生命を尊重する 4(3)だれに対しても差別をすることや偏見を持つことなく公正、公平にし、正義の実現に努める	学級活動：(2)日常生活や学習への適応及び健康や安全に関すること (薬物乱用防止教室や外部講師の招聘など)

中学校における保健学習と他教科、道徳・特別活動・総合的な学習の時間などとの関連(例)

学年	単元名	他教科	道徳	特別活動・総合的な学習の時間など
1	「心身の機能の発達と心の健康」	体育：体ほぐしの運動 家庭：A(1)中学生の栄養と食事 A(2)食品の選択と日常食の調理の基礎	1(1)望ましい生活習慣を身に付け、心身の健康の増進を図り、節度を守り節制に心掛け調和のある生活をする 2(4)男女は、互いに異性についての正しい理解を深め、相手の人格を尊重する	学級活動：(2)個人及び社会の一員としての在り方、健康や安全に関すること
2	「健康と環境」	家庭：A(4)室内環境の整備と住まい方について B(4)家庭生活と消費について	3(1)自然を愛護し、美しいものに感動する豊かな心を持ち、人間の力を超えたものに対する畏敬の念を深める	総合：環境に関する学習活動
	「傷害の防止」		1(1)望ましい生活習慣を身に付け、心身の健康の増進を図り、節度を守り節制に心掛け調和のある生活をする 4(2)法やきまりの意義を理解し、遵守するとともに、自他の権利を重んじ義務を確実に果たして、社会の秩序と規律を高めるように努める	学級活動：(2)個人及び社会の一員としての在り方、健康や安全に関すること (人工呼吸の実習・外部講師の招聘など)
3	「健康な生活と疾病の予防」	社会(公民的分野)： (3)ア人間の尊重と日本国憲法の基本的原則 体育：体づくり運動 体ほぐし・体力の意義と運動の効果(体育に関する知識) 家庭：A(1)中学生の栄養と食事 A(2)食品の選択と日常食の調理の基礎	1(1)望ましい生活習慣を身に付け、心身の健康の増進を図り、節度を守り節制に心掛け調和のある生活をする 4(2)法やきまりの意義を理解し、遵守するとともに、自他の権利を重んじ義務を確実に果たして、社会の秩序と規律を高めるように努める	総合：環境に関する学習活動 学級活動：(2)個人及び社会の一員としての在り方、健康や安全に関すること (薬物乱用防止教室や外部講師の招聘など)

高等学校における保健学習と他教科、特別活動・総合的な学習の時間などとの関連(例)

保健学習の単元名	他教科	特別活動・総合的な学習の時間など
「現代社会と健康」	倫理：(1)ア 青年期の課題と自己形成 家庭基礎：(2)ア 食生活の管理と健康	ホームル-ム活動： (2)イ 心身の健康と健全な生活態度や習慣の確立、生命の尊重と安全な生活態度や習慣の確立など(薬物乱用防止教室や外部講師の招聘など) 教団：交通安全指導(ヤングライダー-スクールなど)
「生涯を通じる健康」	現代社会：(1)現代に生きる私たちの課題 倫理：(1)ア 青年期の課題と自己形成 家庭総合：(1)人の一生と家族・家庭 (3)高齢者の生活と福祉	総合：福祉に関する学習活動 ホームル-ム活動： (2)イ 心身の健康と健全な生活態度や習慣の確立、生命の尊重と安全な生活態度や習慣の確立など
「社会生活と健康」	現代社会：(1)現代に生きる私たちの課題 政治・経済：(3)現代社会の諸課題 生活技術：(4)ウ 食生活の管理 家庭基礎：(3)イ 消費行動と環境	総合：環境に関する学習活動 ホームル-ム活動： (3)学業生活の充実、将来の生き方と進路の適切な選択決定に関すること

Q 9 保健学習における指導上の問題点とは何でしょうか？



A 小学校

「実生活に結び付けるのが難しい」ことが問題点として多く挙げられています。

中学校

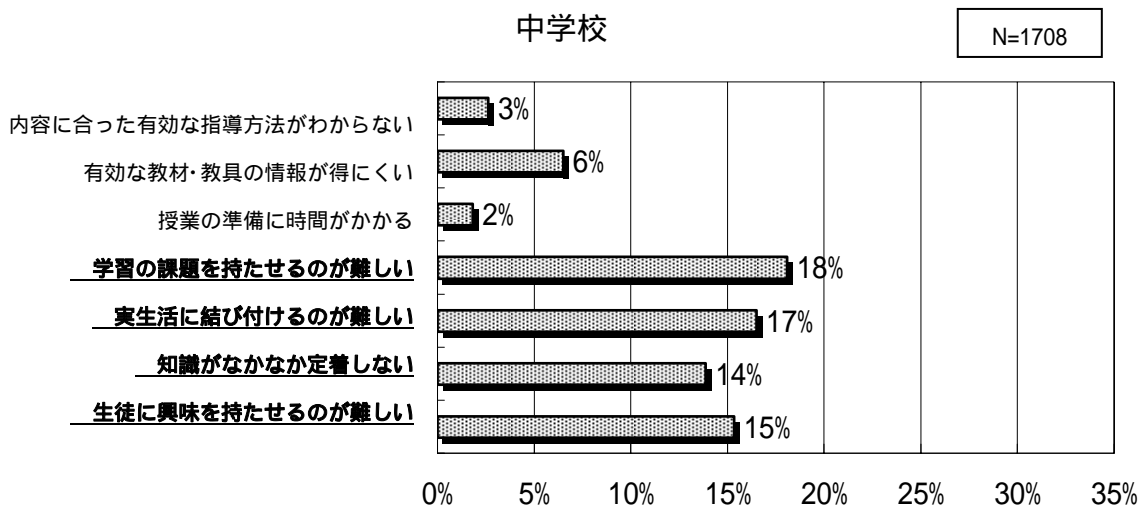
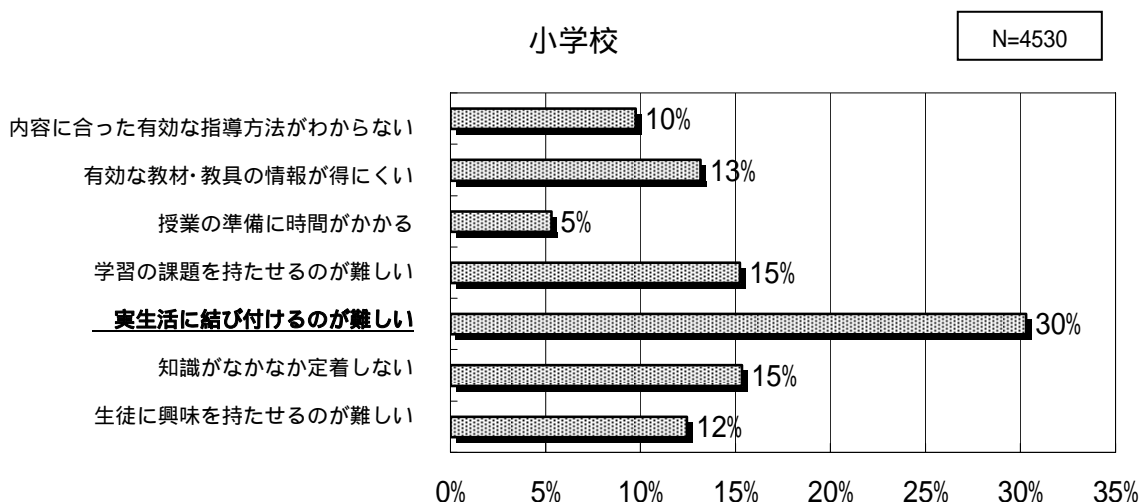
「生徒に興味を持たせるのが難しい」「知識がなかなか定着しない」「実生活に結び付けるのが難しい」「学習の課題を持たせるのが難しい」と多岐にわたっています。また3年生の内容は授業として扱うことが時間的に難しくなっている現状にあります。

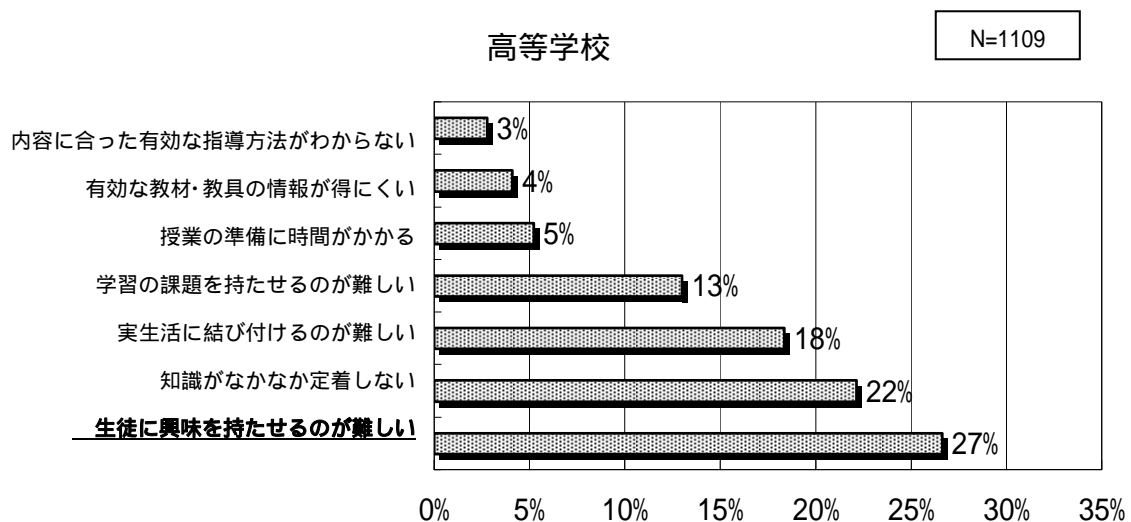
高等学校

中学校同様に、多岐にわたっていますが、中でも「生徒に興味を持たせるのが難しい」と感じている小単元が最も多く挙げられています。（平成17年度保健学習の指導に関する実態調査）

平成17年度、体育センターで行った神奈川県の小、中、高等学校の先生方を対象の保健学習の指導に関する実態調査によると、先生方から挙げられた指導上の問題点は次の通りでした。

（全ての単元・小単元における指導上の課題は、体育センターホームページにある研究報告書をご覧ください。）





小・中・高等学校の、ほとんどの単元・小単元において、教科書を使用した講義形式の授業が行われており、補助的に市販のワークブックや自作プリントが使用されている傾向にあります。講義形式は、知識を伝えるのに適した手法といえますが、より実感を持たせるとともに思考を深め、主体的に学習させるためには、参加型の学習等を取り入れることも有効です。

心の健康に関する内容について、先生方が挙げた問題点(アンケート結果より)

「心の健康」に関連する内容では、小・中・高等学校とも「指導効果」で「あまり効果がなかった」の割合が他の内容と比べると高くなっており、指導上の問題点も多岐にわたっていました。(平成17年度保健学習の指導に関する実態調査)

自由記述の内容を見ると、小学校の先生からは「児童の内面のことなので、意見交換がしにくく、教師の教え込みになってしまう」「具体的な個人への課題に入りやすく、全体指導になってしまう」、中学校の先生からは「中学1年次は精神年齢にかなりばらつきがあり、ポイントの焦点化が難しい」「精神機能、自己形成、欲求、心の健康等は生徒に興味を持たせるのが大変難しい」「有効な教材、教具がないことも課題となっている」「自分(達)の身体のことと、捉えられない生徒が多い」、高等学校の先生からは「保健に対する意識が非常に低く、知識上身に付いたとしても実践する生徒が少ない」「日常生活との関連からいかに生徒に興味を持たせるかが課題」等の意見がありました。

このような指導上の問題点に加え、子どもたちの実際の心の現状を見ると、この内容に関する課題は大きいと言えるでしょう。